

平成 21 年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

・事業の実施

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

(1) 国際連携・協力事業

第 9 回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）の開催準備

第 9 回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議 EMECS9）を平成23年(2011年)8月末に、アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市で開催するため、国際エメックスエメックスセンター科学・政策委員会（平成21年5月）の議論を踏まえ、同委員会委員やメリーランド州環境省等と協議・調整を行った。その結果、開催テーマは次のとおり決定された。また、プログラム案や詳細日程案等については、引き続き調整を行っており、さらには次回の科学・政策委員会（平成22年6月）において検討が行われる予定である。



科学・政策委員会での検討

- ・開催予定時期 平成23年(2011年)8月28日～8月31日（予定）
- ・開催予定テーマ “*Ensuring Accountability and Effective Communication for Successful Integrated Management of Enclosed Coastal Seas*”

「閉鎖性海域の統合的管理を実施するための、説明責任と情報共有環境の確保（仮訳）」

エメックス国際ワークショップの開催

「里海」は日本の沿岸域環境管理のキーワードとなっているが、世界的に広めていくため、平成18年（2006年）にフランス（カーン）で開催したEMECS7において沿岸域管理の新しいコンセプトとして発表され、平成20年（2008年）に中国（上海）で開催されたEMECS8において里海ワークショップとして1セッションが設けられるとともに、「上海宣言」の中でも「里海」の概念が大きく取り上げられた。

この流れを平成23年（2011年）開催予定のEMECS9につないでいくとともに、特に東アジア諸国との連携を深めるため、東アジア海域会議2009（2009年11月23日～27日、フィリピン・マニラ）において、「里海に関する国際ワークショップ」を、東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）と連携して開催した（日本財団助成事業）。

【テーマ】生物の生息環境の保全と修復に向けた地域での取組：

里海やその他の取組についての経験

【日時】平成21年11月24日(火) 10:30~18:10

【場所】フィリピン マニラ（フィリピン国際コンベンションセンター）

【主催】国際エメックスセンター、東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）

【概要】松田治広島大学名誉教授の総合司会のもと3部で構成した。

パート1では、柳哲雄九州大学教授を座長として、里海のご概念や日本での里海創生の実践例について7つの報告を行った。

パート2では、あん・まくどなると国連大学高等研究所いしかわ／かなざわオペレーティングユニット所長を座長として、東アジア及び東南アジアから、里海に類似した実践例について9つの報告を行った。

パート3では、松田名誉教授のコーディネートにより3名のパネリストで里海のご概念やその実践について総括討議を行った。参加者は約100名であった。

【参考：東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）】

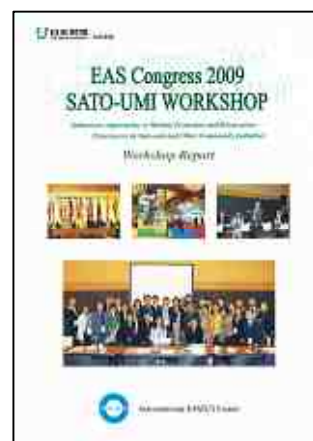
東・東南アジア海域における環境保全と調和した開発を進めるため、政府・地方政府・NGO・研究機関等の連携強化を目的として設立された組織で、日本政府（国土交通省）は2002年から参加。国際エメックスセンターは、非政府パートナーとして、2008年から参加。



国際ワークショップの様様



パネリストによる総括討議



エメックス活動の推進

国際的な活動の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを継続的に構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行っている。

平成21年度は、ロシアのソチで開催されたMEDCOAST 09（平成21年11月10日～14日）に、渡辺正孝科学・政策委員長を派遣し、エメックス会議の歴史や意義についての発表とともに、将来のエメックス会議候補地の可能性等について打診を行った。



MEDCOAST09

ロシア（ソチ）

国内外機関とのパートナーシップの形成

2008年に非政府パートナーとして参画した東アジア海域環境管理パートナーシップ（PEMSEA）が主催する、東アジア海域会議2009（平成21年11月23日～27日、フィリピン・マニラ）に参加して、「里海に関する国際ワークショップ」を開催（前述）するとともに、パートナーシップ会議等への参加を通じて、海外関係機関とのパートナーシップの充実を図った。

また、平成21年9月5日～7日に、中国国家海洋局第2海洋研究所が中国（桂林）で主催した「中国泥質沿岸域の底質動力学」ワークショップに、LOICZ（The Land-Ocean Interaction in the Coastal Zone：陸域・海域相互作用研究計画）と共に当センターが共催した。このワークショップには、当センター科学・政策委員会委員であるエリック・ウォランスキー教授（オーストラリア）と陳中原教授（中国）が参加し、発表を行った。

さらには、2010年名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議に向け、国内の閉鎖性海域の環境保全に取り組むNPO等と連携して、国際フォーラムを開催した。

[テーマ] 里海と生物多様性

[日 時] 平成22年2月10日(水) 13:30～16:30

[場 所] 神戸市 ラッセホール

[主 催] 国際エメックスセンター

[概 要] 里海と生物多様性について、日本と国際的な動きについて、環境省担当官及び松田治広島大学名誉教授から発表を行った。

活動事例としては、日本から伊勢・三河湾及び中津干潟でのNPOの取組2例について、また国際的なものとして、タイ及びフィリピンの取組について報告を行った。

会場の参加者からは、中津干潟での子ども達と地元の漁師達とともに参加する環境学習の取組への質問など、熱心な意見交換が行われた。参加者は約120名であった。



国際フォーラムの様様

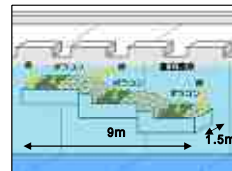
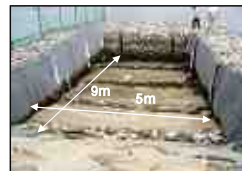
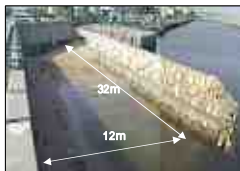


報告書

(2) 調査研究事業

閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、徳島大学や大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図った。



アジアへの技術移転に関する調査

日本の水環境再生技術の海外移転について、タイにおける技術移転ニーズ精査のため、松田治広島大学名誉教授他を現地に派遣し、チュラロンコン大学ピアムサック・メナサウエイド教授等現地関係者と協議を行うとともに、現地調査を行った（平成21年7月）。その結果、平成22年度の事業として、担当者の招聘や技術移転に向けた研修等を行うこととしている。



播磨灘里海づくり事業業務

兵庫県では相生湾及び赤穂海岸を対象として「播磨灘の里海づくり事業」を平成19~20年度に実施し、これまで現地調査や地元懇談会、専門委員会等の開催を行ってきた。これらの結果及び地元懇談会での議論等を踏まえ、懇談会の

活動を引き継いでいく「里海づくり地域協議会」による里海づくり構想の策定に資するため、兵庫県の委託を受け、里海づくり事例の収集や活動内容の提案等の資料作成を行った。

2 情報収集整備活用事業

情報収集・提供システムの運用・管理

情報交流の基盤として、平成20年度に改定したインターネット・ホームページ（日本語版及び英語版）の運用、管理を行うとともに、メール配信システムにより、当センターが主催するイベント情報等の提供を行った。

また、内外の関係者が、閉鎖性海域に関する水質等の環境データや社会経済データ等の情報を、インターネットを通じて検索し活用できる「閉鎖性海域環境情報システム」の運用・管理を行った。



センターホームページ



メールマガジン



環境情報システム

第8回世界閉鎖性環境保全会議（エメックス会議EMECS8）の報告書の作成・配付

平成20年10月に中国・上海市で開催したEMECS8の成果を普及させるため、EMECS8の主な発表内容等を掲載した冊子を日本語及び英語で作成し、関係者・関係団体等に配付した。



エメックスニュースの発行

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を、日本語及び英語で発行した。なお、ニュース発行にあたっては、当センターのホームページからダウンロードにより提供を行っており、当センターのメール配信システムによりホームページ掲載案内を行っている。



日本語版



英語版

第30号	[発行年月] 平成22年3月 [内 容] <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際エメックスセンター科学・政策委員会新体制へ移行 ・ 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議のテーマ決定 ・ 東アジア海域会議2009での里海ワークショップの概要報告 ・ メッドコースト会議の報告レポート(渡辺科学・政策委員長) ・ JICA研修報告(研修生からのレポート) 等
------	--

3 人材育成事業

閉鎖性海域の水環境管理研修

我が国の閉鎖性海域における環境保全・創造の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域の水環境管理研修」を国際協力機構(JICA)の委託により実施した。

[研修期間] 平成21年8月23日(日)～10月31日(土)			
[研修リーダー] 松田治 広島大学名誉教授			
[研修内容]			
講義	環境管理及び水質保全等に係る基礎理論及び対策		
実習	水質モニタリング、生物モニタリング、リモートセンシング技術等		
現地見学	沿岸海域環境に関する研究施設、排水処理施設、環境教育現場等		
[研修員]			
	氏名	国名	所属
1	ユムサ・ディオマンテ	コートジボワール	環境・水域・森林省 環境政策・協力部
2	ピ・ボコ・ギユム・クアミ	コートジボワール	環境・水域・森林省 国家持続可能開発委員会
3	プイモ・マセレン・フラン	コートジボワール	環境・水域・森林省 環境中央研究所
4	ハネ・セイトゥ・カラモ	コートジボワール	運輸省 港湾・海事局海上保安部
5	ソコラン・ローラン・アスム	コートジボワール	運輸省 港湾・海事局公有潟湖担当係
6	エクトル・ベルガラ・ウイジャル	メキシコ	環境・自然資源事務局 陸・海上・沿岸環境局
7	ソイラ・ヨランダ・ヘルス・ヘラヨ	メキシコ	持続可能開発環境省 環境保全検事当局
本研修は平成2年度から兵庫県(社団法人瀬戸内海環境保全協会)が実施し、国際エメックスセンターが設立されてから(平成7年度以降)は当センターが実施している。平成2～21年度の研修員合計は29カ国135名。			



フィールドでの実習



実験室での実習

海の環境学習人材育成事業

これからの海の環境保全・創造を担う人材を育成するため、尼崎港に設置している人工干潟・石積堤等の環境修復実証実験施設等を活用し、主として阪神間の小学生や地域住民等を対象に、海の機能、浅場の機能や役割、大阪湾・尼崎港の現状、海の生物とその働き等を内容とする環境学習を実施した。

- [実施場所] 尼崎港内の実証試験施設及び武庫川下流浄化センター会議室
- [実施回数] 7回
- [参加者数] 225名
- [プログラム内容] 環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」
二枚貝を使った海水浄化実験
パックテストによる水質測定
人工干潟等での生物採取と観察
海中プランクトンの顕微鏡観察 他



人工干潟での生物観察



教員を対象とした学習会

国内外の若手研究者を対象とした能力開発の検討

閉鎖性海域の環境問題について研究を行っているアジア太平洋地域の若手研究者を対象とし、平成22年度に研修やワークショップからなる能力開発事業を実施すべく、APNセンターと事業調整を行い、APNセンターが公募したCAPaBLEプログラムへの応募を行った結果、3月末に採択通知を受け、平成22年度に事業実施することとなった。



世界の学生を対象とした小論文コンクールの検討

世界の学生が、閉鎖性海域の環境保全について関心を持つとともに、EMECS9の青少年環境教育交流セッションを充実させるため、発展途上国及び国内の高校生及び大学生を対象として、環境活動等に関する小論文の募集について検討を行った。



(参考)
EMECS8での青少年環境
教育交流セッション

EMECS9の概要が示される第1回アナウンスメント発行時期(平成22年7月予定)に合わせて公募し、優秀者をEMECS9に派遣する予定である。

4 普及啓発事業

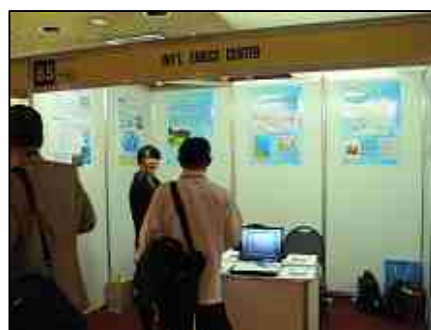
環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、次の環境イベントへパネル等の出展を行い、里海をはじめ、当センターの活動概要について、来場者への情報発信を行うことが出来た。

[出展イベント]	うんぱく2009 尼崎運河博覧会
[開催年月日]	平成21年10月11日(日)
[開催場所]	尼崎市北堀運河河畔
[出展イベント]	ひょうごエコフェスティバル2009
[開催年月日]	平成21年11月14日(土)、15日(日)
[開催場所]	豊岡市日高町但馬ドーム
[出展イベント]	東アジア海域会議(EAS Congress 2009)
[開催年月日]	平成21年11月23日(月)~26日(木)
[開催場所]	フィリピン マニラ フィリピン国際コンベンションセンター



うんぱく2009出展
(兵庫県尼崎市)



東アジア海域会議展示ブース
(フィリピン・マニラ)

・理事会、評議員会、科学・政策委員会の開催

1 理事会の開催

第23回理事会

平成20年度の事業報告及び収支決算報告について承認を得るとともに、評議員の補欠選任を行った。また、当センターの今後の活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成21年6月16日(火)
[開催場所]	兵庫県公館第2会議室
[議案等]	議案第1号 平成20年度事業報告に関する件 議案第2号 平成20年度収支決算報告に関する件 議案第3号 評議員の補欠選任に関する件 報告第1号 第12回科学・政策委員会の開催結果について

第24回理事会

評議員1名について人事異動があったため、第17回理事会で了解された書面表決による理事会で、評議員の補欠選任を行った。

[開催月日]	平成21年8月18日(火)
[開催場所]	兵庫県庁内会議室
[議案等]	評議員の補欠選任に関する件

第25回理事会

新制度の公益財団法人では「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」第170条の規定により設置が義務付けられている評議員について、最初の評議員の選任方法は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」第92条により、旧主務官庁の認可を受けて理事が定めるところによると規定されていることから、最初の評議員の選任方法について承認を求めた。

[開催月日]	平成21年10月14日(水)
[開催場所]	兵庫県庁内会議室
[議案等]	最初の評議員の選任方法に関する件

第26回理事会

平成21年度の事業計画及び収支予算の変更、平成22年度の事業計画及び収支予算について承認を得た。また、事務所移転に伴う寄付行為の変更、理事長等の互選、評議員及び顧問の任期満了に伴う改選、公益財団法人移行に関する基本的事項を決定した。さらに、主要事業について意見交換を行った。

[開催月日]	平成 2 2 年 3 月 1 9 日 (金)
[開催場所]	兵庫県公館第 2 会議室
[議案等]	議案第 1 号 平成 2 1 年度事業計画書の変更(案)に関する件
	議案第 2 号 平成 2 1 年度収支予算書の変更(案)に関する件
	議案第 3 号 平成 2 2 年度事業計画(案)に関する件
	議案第 4 号 平成 2 2 年度収支予算(案)に関する件
	議案第 5 号 寄付行為の変更に関する件
	議案第 6 号 改選に伴う理事長等の互選に関する件
	議案第 7 号 任期満了に伴う評議員の改選に関する件
	議案第 8 号 任期満了に伴う顧問の改選に関する件
	議案第 9 号 公益財団法人移行に関する件
	報告第 1 号 里海国際ワークショップについて

2 評議員会の開催

第 2 2 回評議員会

監事1名について人事異動があったため、第 1 7 回理事会で了解された書面表決による評議員会を開催し、監事の補欠選任を行った。

[開催月日]	平成 2 1 年 5 月 1 2 日 (火)
[開催場所]	兵庫県庁内会議室
[議案等]	監事の補欠選任に関する件

第 2 3 回評議員会

平成 2 0 年度の事業報告及び収支決算報告について同意を得た。また理事の補欠選任を行うとともに、当センターの今後の活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成 2 1 年 6 月 2 3 日 (火)
[開催場所]	兵庫県民会館鶴の間
[議案等]	議案第 1 号 平成 2 0 年度事業報告に関する件
	議案第 2 号 平成 2 0 年度収支決算報告に関する件
	議案第 3 号 理事の補欠選任に関する件
	報告第 1 号 第 1 2 回科学・政策委員会の開催結果について

第 2 4 回評議員会

平成 2 1 年度の事業計画及び収支予算の変更、平成 2 2 年度の事業計画及び収支予算について同意を得た。また、事務所移転に伴う寄付行為の変更、任期満了に伴う理事及び監事の改選を行うとともに、公益財団法人移行に関する基本的事項を決定した。さらに、主要事業について意見交換を行った。

[開催月日]	平成 2 2 年 3 月 1 2 日 (金)
[開催場所]	兵庫県職員会館特別会議室
[議 案 等]	議案第 1 号 平成 2 1 年度事業計画書の変更(案)に関する件
	議案第 2 号 平成 2 1 年度収支予算書の変更(案)に関する件
	議案第 3 号 平成 2 2 年度事業計画(案)に関する件
	議案第 4 号 平成 2 2 年度収支予算(案)に関する件
	議案第 5 号 寄付行為の変更に関する件
	議案第 6 号 任期満了に伴う理事及び監事の改選に関する件
	議案第 7 号 公益財団法人移行に関する件
	報告第 1 号 里海国際ワークショップについて

3 科学・政策委員会の開催

第 1 2 回科学・政策委員会

科学・政策委員長及び副委員長の選任を行うとともに、主要事業である第 9 回世界閉鎖性海域環境保全会議(エメックス会議 EMECS9)の開催について、メリーランド州環境省のロバート・サマーズ副長官からの開催計画概要案報告を踏まえ、開催テーマ等について熱心な意見交換が繰り広げられた。

また、第 1 0 回世界閉鎖性海域環境保全会議(エメックス会議 EMECS10)の候補地検討について議論を行うとともに、最近の国際エメックスセンターの事業について報告、今後のエメックス活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成 2 1 年 5 月 2 2 日 (金)
[開催場所]	国際健康開発センタービルホール A ・ B
[議 題]	議題 1 : 科学・政策委員会委員長及び副委員長の選任
	議題 2 : 第 9 回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS9)
	議題 3 : エメックスセンターの最近の活動状況
	議題 4 : 第 10 回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS10) 開催候補地